

学位論文要旨

1950年代～1970年代における米国音楽教育界の諸相  
—「教育の現代化」と美的教育思想をめぐる音楽教育改革の実際—

広島大学大学院

教育学研究科 文化教育開発専攻

D122754 長谷川 諒

## 論文題目

1950年代～1970年代における米国音楽教育界の諸相  
－「教育の現代化」と美的教育思想をめぐる音楽教育改革の実際－

## 論文目次

### 序章

第1節 研究の動機

第2節 研究対象の歴史的背景

第1項 進歩主義教育思想とその衰退, スプートニクショック (1957)

第2項 教育改革の気運とウッツホール会議 (1959) の開催

第3項 イエールセミナー (1963)

第4項 総括－「教育の現代化」をめぐる－

第3節 先行研究の検討

### 第I部 The Contemporary Music Project

第1章 The Contemporary Music Project の概要

第2章 The Young Composers Project と Composers in Public Schools

第1節 The Young Composers Project と Composers in Public Schools の概要

第2節 ノーマン・デロ・ジョイオの音楽教育観と The Young Composers Project 設立の意図

第1項 作曲家としてのノーマン・デロ・ジョイオとパウル・ヒンデミットが与えた影響

第2項 教育者としてのノーマン・デロ・ジョイオ

第3項 The Young Composers Project の着想

第3節 駐在作曲家の活動の実際

第4節 総括－駐在作曲家計画の史的意義とノーマン・デロ・ジョイオの意図－

第3章 セミナー, ワークショップ, パイロットプロジェクト

第1節 セミナー, ワークショップ, パイロットプロジェクトの目的と概要

第2節 The Ithaca College Project と The Interlochen Arts Academy Project

第1項 2つのプロジェクトの関連性

第2項 The Ithaca College Projects－Music Education Seminar in Contemporary Music－

第3項 The Interlochen Arts Academy Project－Learning Through Creativity－

第4項 2つのプロジェクトの特徴

第3節 The Baltimore Project

第1項 The Baltimore Project－Creative Approaches to Contemporary Music in the Elementary School－

第2項 The Baltimore Project の特徴

第4節 The San Diego Project

第1項 The San Diego Project－Developing Musical Understanding through Contemporary Music－

第2項 The San Diego Project の特徴

第5節 The Farmingdale Project

第1項 The Farmingdale Project－Two Approaches to Creative Experience in Music－

第2項 The Farmingdale Project の特徴

第6節 総括－各プロジェクトの実際とその差異－

## 第4章 The Northwestern Seminar

### 第1節 The Northwestern Seminar の概要

#### 第2節 ポジションペーパー

##### 第1項 ポジションペーパーの概要

##### 第2項 ポジションペーパーに見る The Northwestern Seminar の基本的な問題意識

### 第3節 討議内容とレコメンデーション

##### 第1項 討議内容とレコメンデーションの概要

##### 第2項 討議内容とレコメンデーションに見る The Northwestern Seminar の実際

### 第4節 総括—Northwestern Seminar に見られる Comprehensive Musicianship の理念

## 第5章 Institutes for Music in Contemporary Education

### 第1節 Institutes for Music in Contemporary Education の概要

### 第2節 Institutes for Music in Contemporary Education によるミュージシャンシップのコース

#### 第1項 Institutes for Music in Contemporary Education によるミュージシャンシップのコース運営の実際

#### 第2項 楽曲を中心に据えた統合的アプローチ

### 第3節 The Airlie House Symposium による Institutes for Music in Contemporary Education の評価

#### 第1項 The Airlie House Symposium の概要

#### 第2項 The Airlie House Symposium が規定した評価基準

### 第4節 総括—Institutes for Music in Contemporary Music Education の活動の実際—

## 第6章 収束期の活動

### 第1節 収束期の活動の概要

### 第2節 プログラム I —Professionals in Residence—

### 第3節 プログラム II —Comprehensive Musicianship の指導—

### 第4節 プログラム III —補完的活動—

### 第5節 The Contemporary Music Project の収束期における活動の特質

## 第7章 The Contemporary Music Project による活動の真価とその音楽教育史的意義

## 第II部 The Manhattanville Music Curriculum Program

### 第8章 The Manhattanville Music Curriculum Program の概要

### 第9章 MMCP Synthesis

#### 第1節 Synthesis 作成の背景とその概要

#### 第2節 Synthesis の論理的基盤—音楽の特性と音楽教育の基本的指針—

#### 第3節 カリキュラムの目的—4つの目的指針と概念・技術の関わり—

#### 第4節 カリキュラムの形状—スパイラルカリキュラム—

#### 第5節 個別の教授の実際—ストラテジー—

#### 第6節 カリキュラムの実際とその構造的特質

### 第10章 MMCP Interaction

#### 第1節 Interaction 作成の背景とその概要

#### 第2節 カリキュラムの目的—「創造の過程」の実際—

#### 第3節 即興演奏の段階的育成—Developmental Phase of Musical Exploration の理論—

#### 第4節 カリキュラムの実際とその構造的特質

## 第 11 章 副次的なカリキュラム

### 第 1 節 副次的なカリキュラム制作の背景

### 第 2 節 Science-Music Study

#### 第 1 項 Science-Music Study の概要と目的

#### 第 2 項 教授の連続性—具体的なストラテジー—

#### 第 3 項 Science-Music Study の構造的特質

### 第 3 節 Instrumental Study

#### 第 1 項 Instrumental Study の概要と目的

#### 第 2 項 基本的な教授システム—指導における 3 つの段階—

#### 第 3 項 Instrumental Study の構造的特質

### 第 4 節 Electronic Keyboard Laboratory

#### 第 1 項 Electronic Keyboard Laboratory の概要と目的

#### 第 2 項 単元としての encounter の枠組み

#### 第 3 項 カリキュラムの構成原理—DPME の応用—

#### 第 4 項 Electronic Keyboard Laboratory の構造的特質

## 第 12 章 MMCP によるカリキュラムの真価とその史的意義

## 第Ⅲ部 ベネット・リーマーの美的教育思想とそれに基づくカリキュラム

### 第 13 章 ベネット・リーマーと美的教育思想

### 第 14 章 博士論文にみるリーマーの音楽教育観

#### 第 1 節 リーマーの博士論文の概要

#### 第 2 節 芸術に対する 2 つの視点—形式主義と関連主義—

#### 第 3 節 美的経験と宗教的経験の目的—自己の認識—

#### 第 4 節 美的な性質と宗教的な性質

#### 第 5 節 リーマーの博士論文に見られる美的教育観とその史的意義

### 第 15 章 「中・高等学校を対象とする 2 年間の一般音楽カリキュラムの開発とその試行」にみるリーマーのカリキュラム構成論の具体

#### 第 1 節 プロジェクト実施の背景とその目的

#### 第 2 節 カリキュラムの目的—美的感受性—

#### 第 3 節 カリキュラムの連続性—長期的な 3 段階の教授—

#### 第 4 節 各単元における具体の学習活動—アクティビティとリスニング—

#### 第 5 節 カリキュラムの構造的特質

### 第 16 章 ベネット・リーマーの音楽教育思想とその史的意義

## 終章 1950 年代～1970 年代にかけての米国音楽教育界の諸相とその今日的意義

### 第 1 節 1950 年代～1970 年代にかけての米国音楽教育界の実際

### 第 2 節 デヴィッド・エリオットの視点から見るその今日的意義

### 第 3 節 総括—我が国の音楽教育実践に対する示唆

## 文献

### i. 史料

### ii. 参考文献

## 論文要旨

### 序章

本章では、研究に対する問題意識の設定と研究対象の史的背景の概観、そして先行研究の検討を行った。

我が国の学校現場には、音楽教育とは何か、教育で取り扱うべき音楽とは何かという目的指針に関する統一的理解が存在しない。第1節の前半では、音楽教育を目的視から論考することの重要性を指摘した。その上で、比較教育的な立場から、1950年代～1970年代の米国で行われた教育改革の中でも、音楽それ自体の性質に依拠した独自の教育観を構築した The Contemporary Music Project (以下、CMP), The Manhattanville Music Curriculum Project (以下、MMCP), そしてベネット・リーマーの美的教育思想とカリキュラムの3者に着目し、これらを「教育の現代化」と美的教育思想という2側面から捉えることで、その史的意義を明示することを、本研究の目的として設定した。

第2節では、本研究の対象時期に先立って普及した進歩主義教育思想の概要とその衰退の過程、そして、そこから「現代化」が始まる様子を概観した。

第3節では、先行研究の検討を行った。当代の音楽教育改革を「現代化」と美的教育思想を相補的に捉えながら検討した包括的な歴史研究は本論に先立って存在しないが、ここでは Covey (2013), Bess (1988) による CMP 研究, Moon (2004) による MMCP 研究の結果を参照した。また、リーマーについては、今日の音楽教育学者デヴィッド・エリオット (David J. Elliott) による包括的な哲学的批判が存在するが、その視座は、先行研究としてというよりも、本研究対象の今日的意義を明らかにするのに有益であるため、ここでの検討は避け、終章の第2節で改めて取り上げることとした。

## 第1部 The Contemporary Music Project

### 第1章 The Contemporary Music Project の概要

本章では、CMP の活動史を概観した。CMP の活動は、作曲家のノーマン・デロ・ジョイオ (Norman Dello Joio) が発案した、若い作曲家たちを駐在作曲家として公立学校に派遣し、その学校が擁するアンサンブルのために作品を書かせるというプロジェクトに端を発する。デロ・ジョイオの提案は、フォード財団の経済的支援のもと、1959年に The Young Composers Project (以下、YCP) として実施されることとなる。以降、YCP は幾度かの資金提供を経て、その名称の変更とともに、活動範囲を拡大していった。

### 第2章 The Young Composers Project と Composers in Public Schools

CMP の活動の発端となった YCP は、Composers in Public Schools という名称でその後も継承されていた。本章では、これら2つの作曲家派遣事業の実際とその意義を論じた。

これら2つのプロジェクトは、学校教育現場を活動場所にしていたにも関わらず、そこでの作曲家の活動は、教育者というよりも自由なクリエイターのそれそのものであった。しかし、その自由なクリエイターとしての作曲家の活動は、生徒に「作曲家が音楽に取り組む姿そのもの」、すなわち「作曲的な音楽との関わり方」を提示することとなり、結果的に学校やコミュニティーの音楽文化に教育的とも言える影響を与えていた。

### 第3章 セミナー、ワークショップ、パイロットプロジェクト

一連の作曲家派遣事業を経て、CMP は、学校教師の現代音楽に関する知識不足を痛感する。そこで CMP は、教師を対象にした現代音楽に関する講習会を計画した。本章では、CMP 自身の出版物に報告

が掲載されている5つのプロジェクトに着目し、その活動の実際と意義について論じた。

本章で検討した5つのプロジェクトの中でも、作曲家ウォーレン・ベンソン（Warren Benson）が監修した2つは、ある種特殊な位置にある現代音楽の書法を学習者に探究させることで、「音楽とは何か」という哲学的思考を導こうとした点で重要である。ここでは、音楽の在り方に対して恒常的な疑問をもちながら探究していくという「現代作曲家的な音楽との関わり方」こそが、音楽教育において提供すべき1つの教育内容であるとされていたのである。

#### 第4章 The Northwestern Seminar

作曲家派遣事業とセミナー、パイロットプロジェクトの中で、作曲家達は、教員を育成する大学のカリキュラムに偏執的な傾向があることを見出した。そこで、CMPはノースウエスタン・セミナー（The Northwestern Seminar）を開催し、音楽の専門教育課程に所属する学生が身に付けるべき能力を Comprehensive Musicianship として規定することで、教員養成課程改革の指針を築こうとした。本章では、ノースウエスタン・セミナーで議論された Comprehensive Musicianship の特性について論じた。

ノースウエスタン・セミナーでは、西洋音楽の構造理解に基づいた実際的な「技術」と、質の高い音楽経験を目的に「恒常的な分析的態度をもって音楽に接する」という「コンセプト」の2つの側面が Comprehensive Musicianship の構成要素として定義付けられていた。具体的な技能だけではなく、音楽に関わる際の精神性を「音楽家性」として規定した点で、ノースウエスタン・セミナーとその所産である Comprehensive Musicianship は音楽教育史において特筆されるべき存在となった。

#### 第5章 Institutes for Music in Contemporary Education

ノースウエスタン・セミナーで専門教育課程の学生が身に付けるべき能力が Comprehensive Musicianship として定義されると、次いでその実験的教授が必要となる。そこで、発足したのが Institutes for Music in Contemporary Education（以下、IMCE）である。本章では、対象となる大学に設置された、Comprehensive Musicianship を教授するためのコース、すなわち IMCE コースの実態を明らかにした。

IMCE コースは、IMCE という統括機関が管理しながらも、具体的な運営方法は大学側の責任者に一任されていたために、その実態は非常に多様な形態をとっていた。そして結果的に、Comprehensive Musicianship の重要な要素であった「コンセプト」というよりも、種々の「技術」を「関連付けて教授する」という教授の方法論のみが独立して強調されることが多々あった。「包括的な音楽家性」というキーワードは、IMCE コースという実践段階に移される際に、「包括的な学習内容の統合」へとレトリカルに転換されていた。

#### 第6章 収束期の活動

IMCE の終了により、CMP の活動は一旦完結する。そしてそれと同時に新たな3つのプログラムが開始した。本章ではこれら3種の活動の実際についてそれぞれ検討した。

3種の活動の中でも、音楽教育学者や教師に Comprehensive Musicianship の指導方法を研究させるプログラムⅡは、CMP にそれまでなかった多文化教育の視点をもたらした点で重要である。CMP は、収束期において、マイノリティの理解を音楽構造の理解と関連付けて目的化するという、新たな様相を呈し始めたのである。

#### 第7章 The Contemporary Music Project による活動の真価とその音楽教育史的意義

本章では、第Ⅰ部の総括として、CMP の活動の真価とその音楽教育史的意義について言及した。

CMP の活動を概観すると、その活動の多様性ととも、ある 1 つの連続性が浮き彫りになる。それは、音楽構造に対して客観的な視点を持つ作曲家的、音楽家的なスタンスで音楽と関わることに教育的意義を見いだす CMP の一貫した立場である。YCP を発端とする作曲家派遣事業で作曲家が生徒に提示した「作曲家的な音楽との関わり方」、教師を対象としたセミナーで強調された「現代作曲家的な音楽との関わり方」、そして、ノースウエスタン・セミナーによって提示された「恒常的な分析的態度をもった音楽家としてのスタンスで音楽と関わる」という Comprehensive Musicianship の性質とその教授を目指した IMCE、そして収束期に見られた多文化教育において強調された構造分析的学習等は、まさにその象徴であろう。結局の所、CMP は、種々の取り組み毎に性質の異なる多様な成果を上げつつも、「音楽家」として音楽と関わるということの教育的重要性を強調している、という一点においては一貫していたのである。CMP の活動の真価は、Comprehensive Musicianship というテクニカルタームの本質を支える哲学的思想基盤を継続的に発展させていった点にあると言えるのである。

## 第 II 部 The Manhattanville Music Curriculum Program

### 第 8 章 The Manhattanville Music Curriculum Program の概要

本章では、MMCP 発足の経緯とその活動の所産を概観した。

MMCP は、1964 年に立法された Elementary and Secondary Education Act (以下、ESEA) によって財源を得て活動を開始した。ESEA はこの時期の音楽教育改革に関する様々な取り組みを助成したが、その中でも最高額の補助金の給付を受けたのが、長期的な音楽教育カリキュラム開発を目的とする MMCP であったことは特筆すべきであろう。

### 第 9 章 MMCP Synthesis

Synthesis は、MMCP が作成した最も重要なカリキュラムであろう。心理学者のジェローム・ブルナー (Jerome Bruner) が主張したように、莫大な学問領域を効率的に学習するには、その学問独特のキー概念を理解することが肝要になる。Synthesis は、ダイナミクス、形式、音高、リズム、音色、和音の形状の 6 つを音楽のキー概念として設定する、いわゆるスパイラルカリキュラムとして開発されたものであった。本章では、Synthesis が有するカリキュラム構造を分析し、その特質について論じた。

このカリキュラムの最も重要な特徴は、特定の文化圏の慣例を超えてあらゆる音楽に備わる普遍的な構造的性質である「本来的概念」の学習を推奨している点、そしてその学習が、受動的な聴取や座学ではなく、即興的な創作という学習者の「行為」に関連付けて教授されることが強調されている点であろう。Synthesis は、概念理解を行動的語法との連関で捉えるという特異な概念理解観において、特筆されるべきカリキュラムであった。

### 第 10 章 MMCP Interaction

前章で検討した Synthesis もそうであったように、MMCP のカリキュラムは、生徒の即興演奏の質が学習の成否を大きく左右する。従って、低学年の児童に対しては、概念の理解を促す以前に、それに至る過程である即興演奏行為それ自体に焦点化した教授を行う必要があった。そこで作成されたのが、Grade-K から Grade-2 の生徒を対象とするカリキュラムである Interaction である。本章では、Interaction の構造的特徴について論じた。

Interaction は、「創造の過程」の経験それ自体を焦点化したカリキュラムであり、児童は、楽音・非楽音に関わらず、音それ自体が有する表現性を実験的即興的に探究する。従って、このカリキュラムにおいて取り扱われる音楽は、通常のコテキストでは音楽とは認識され得ないような、実験的な響きに終

始することとなる。Interaction は、音の物理的性質が本来的に有する表現性に着目することで、幼い子どもでも、西洋音楽的な技術の習得レベルに左右されずに、ダイレクトに「創造の過程」を経験させることができる点で特筆されるべきものであった。

## 第11章 副次的なカリキュラム

MMCP は、Synthesis と Interaction という主となるカリキュラムに加えて、音楽教育の特定の場面に焦点を当てた、限定的なカリキュラムを構築している。本章では、MMCP が作成した3つのカリキュラム、すなわち、Electronic Keyboard Study, Science Music Study, Instrumental Study に着目し、その構造的性質を明らかにした。

これら3つのカリキュラムを構造的に分析した結果、これらは、カリキュラムにおける演奏技術の取り扱いという観点において、多様な回答を示すものであることが明らかになった。すなわち、Electronic Keyboard Laboratory は概念理解と電子キーボードの演奏技術を強固に連関させたカリキュラムであり、Science-Music Study はミュージックコンクレートを教材に用いることで演奏技術を不要にしたカリキュラムであり、Instrumental Study は模範演奏を録音したテープを用いることで基礎技術の獲得過程に聴覚的知覚力の育成を絡めたカリキュラムであったのである。MMCP は、実際的な技術獲得のプロセスについても特異な教育観を有していたのであった。

## 第12章 MMCPによるカリキュラムの真価とその史的意義

本章では、第II部の総括として、MMCP のカリキュラムが有する真価とその史的意義を指摘した。

MMCP のカリキュラムがセンセーショナルだったのは、何と云ってもそのコンセプチュアルなアプローチと即興演奏という特殊な学習活動であろう。それまでの学校教育が、特定の楽曲の演奏それ自体を暗に目的化していたのに対し、MMCP は、様々な楽曲に通底する構造的特徴を一般化して学習対象にするとともに、それに対して、特定のジャンルの原則や慣例に捉われない非制限的な即興演奏でアプローチしようとしたのであった。

そして、MMCP のカリキュラムにおける即興演奏は、生徒の未熟な演奏技術や知的レベルを度外視して、直接的に概念の理解や「創造の過程」の経験といった高度な目的に達するための手段としても機能する。副次的なカリキュラムとして考案された3つは、そのような技術教育観が表面化したものであろう。MMCP は、技術獲得という課題にも多角的に苦心したプロジェクトであったと言えるだろう。

そのように考えていくと、MMCP の特異なある固執が浮かび上がる。MMCP は、概念理解や創造的過程の経験と言った本質的目的に対する演奏技術の位置付けについて多様なアイデアを有していた一方で、演奏技術を必要としないリスニングを主体とした概念理解のためのカリキュラム開発には決して着手しなかったのである。MMCP の真価は、概念理解という着眼点の新しさのみならず、それを「経験的な知識」として常に創作行為と関連付けた点にあるとも言えよう。

## 第III部 ベネット・リーマーの美的教育思想とそれに基づくカリキュラム

### 第13章 ベネット・リーマーと美的教育思想

本章では、リーマーの略歴と美的教育思想の概要について論じた。

リーマーの美的教育思想は、音楽の構造知覚が人間にもたらす意義を指摘した点で、学問中心主義が説明しきれなかった音楽教育の必然性を補完するものであった。本論では、1963年に執筆されたリーマーの博士論文と、その翌年に開始されたカリキュラム開発プロジェクトの2つを限定的に検討することで、「現代化」の時期に展開されたリーマーの思想の体系の特質に言及したい。



## 第 14 章 博士論文にみるリーマーの音楽教育観

本章では 1963 年にリーマーが執筆した、「美的経験と宗教的経験の共通点」と題された博士論文の内容について検討し、その思想体系を明らかにした。

当該論文の中で、リーマーは、現示的シンボルとしての芸術の美質をその形式的側面から感得することで、その経験は「質的」に宗教的に変容すること、またそのような美的＝宗教的経験は、人間が抱える存在論的不安を解消するための自己意識の陶冶に有用なものであること、を論じていた。そして、リーマーは以上を根拠に、「美的教育が、その機能を十分に果たすなら、それは本質的に宗教的教育である」という大胆な結論を提示するに至っている。このレトリック自体の妥当性には疑問の余地が残るものの、音楽教育の必然性を音楽文化の枠組みに留まらない人間にとっての不可欠性という観点から論じたことは特筆すべきであった。

## 第 15 章 「中・高等学校を対象とする 2 年間の一般音楽カリキュラムの開発とその試行」にみるリーマーのカリキュラム構成論の具体

本章では、リーマーによるプロジェクトである「中・高等学校を対象とする 2 年間の一般音楽カリキュラムの開発とその試行 (Development and Trial in a Junior and Senior High School of a Two-year Curriculum in General Music)」に着目し、そこで作られたカリキュラムの構造的性質を指した。

本カリキュラムは、生徒に「美的感受性」を提供することを目的としている。この「美的感受性」とは、(1) 芸術作品の構造的要素を知覚する能力、そして (2) それらの相互作用の中に人間感情にも共通するダイナミズムを感じ取る能力、の 2 側面から定義されるもので、それを育成する手段として、本カリキュラムには 3 つの段階、すなわち、美学的基盤構築の段階、構造的要素の表現パターンを集積する段階、そしてその慣例的な組み合わせを把握する段階、が設定されていた。そして、個別の授業は、楽曲に分析的な態度で触れる一貫したリスニングを中心とするものであった。

このカリキュラムの重要な特質は、非西洋音楽に対して排他的なスタンスを取っている点であろう。本カリキュラムは、ポピュラー音楽のような、人生の質に対する洞察を開拓するためではなく、聴衆に気に入られる響きを生み出すために作曲されている音楽を教材の対象から排除しているのである。リーマーにとっての芸術的価値の高い音楽とは、人間感情にも似た性質を有する構造的要素を探究することで、人生のダイナミズムを非言語的にシンボライズすることに成功した音楽であった。リーマーは、カリキュラムの美学的な一貫性を保持するために、幅広いジャンルの音楽を学ぶ、というスタンスをあえて放棄したのである。本カリキュラムは、リーマーの美的教育論の性質自体もさることながら、その美学的な一貫性において点において、史的に評価されるべきものであった。

## 第 16 章 ベネット・リーマーの音楽教育思想とその史的意義

本章では、第Ⅲ部の総括として、リーマーが「現代化」の時期に提示した思想と具体的カリキュラムの史的意義に言及した。

リーマーは、価値ある音楽経験、すなわち美的経験を、①音楽構造の知覚、②それに対する反応（すなわち人生への洞察の獲得）、の 2 つの段階で捉えており、その第 2 段階こそを音楽教育の必然性の論拠として主張していた。しかし、実際のカリキュラムには、第 2 段階である人生に対する洞察の獲得に生徒を至らしめる具体的なシステムは存在しない。リーマーが具体的教育において保障しているのは、知覚力の育成までなのである。リーマーの思想の実際的側面での限界は、生への洞察の獲得こそを音楽教育の意義として提示したにも関わらず、それを具体的に提供する手段を開発し得なかった点であろう。

しかし、そもそも、リーマーの想定するような美的経験を、教育システムを通して生徒に提供するこ

となどできるのだろうか。芸術が「人間の生命の本質的なパターン」であるというテーゼを認めたとしても、一個人がそれを特定の音楽に見いだすところまで、教育が責任を持つことができるのだろうか。おそらく否であろう。そのような自己実現は本来的に個人的なものであり、システムティックで同時的な美的経験の提供には困難が付きまとうことは明らかである。リーマーは、実際的な立場から、教育を通して美的な経験それ自体を提供するというよりも、生徒の後の経験が美的になり得る素地を構築しようとしていたとも言えるものである。リーマーの思想は、哲学的あるいは美学的妥当性というよりも、音楽教育学的実際性という観点からカリキュラムと合わせて検討されるとき、新たな史的価値を見いだすことができるものであった。

## 終章 1950年代～1970年代にかけての米国音楽教育界の諸相とその今日的意義

### 第1節 1950年代～1970年代にかけての米国音楽教育界の実際

本節ではCMP, MMCP, そしてベネット・リーマーの思想とカリキュラムの3者を総括しつつ、その実際的な側面が有する真価を指摘した。

本論で検討してきた3者は、音楽構造の理解に教育的価値を見いだしていた点で共通していた。しかし、3者の認識はそれぞれ微妙に異なっていることも確かである。そして、その差異は、それぞれの音楽観の差異に起因するものであった。CMPが想定した学習対象としての音楽はあくまで西洋音楽を中心とする特定の音楽文化であり、その文化内で培われてきた理解が構造理解として設定された。一方MMCPにとっての音楽とは、様々な姿かたちを有する音の連続それ自体であり、文化的コンテクストに規定されない音響の表現性の理解が構造理解として認識されていた。そして、リーマーにとっての音楽とは、「人生の本質的なパターン」をシンボライズした楽曲であり、その構造を知覚し、それに反応するという美的経験こそが、真の意味での構造理解であった。

これらの事実は、この3者が、「現代化」以前に無批判に採択されてきた音楽観、すなわち教育で取り扱うべきは過去の偉大な楽曲であるという前提を、徐々に拡大していたことを示している。CMPは、西洋音楽を中心に据えた点で従来の音楽観を踏襲するものであるが、そこに現代音楽を導入することによって、より広い視野から西洋音楽を捉え直した。MMCPは、音楽を音響にまで一般化することにより、それまで特定のジャンルに縛られていた音楽観を、音それ自体を目的的に取り扱う音楽観へと昇華させた。そしてリーマーは、音や音楽から一旦離れ、人間にとっての意味という視点から音楽を捉えることで、シンボルという音楽観をカリキュラムに体现した。リーマーがカリキュラムで取り扱ったのは西洋音楽のみであったが、それは彼の音楽観が西洋音楽に限定されるものであったというよりは、現示的シンボルとしての性質を強調しやすいのが単に西洋音楽であったためと捉えるべきであろう。3者の音楽観は、まさに音楽それ自体の性質に対する洞察によって構築されていたのである。

これらを総括して導かれる、当代の音楽教育改革の史的意義は、伝統的な西洋音楽が学習対象としての暗黙の前提となっていた当時の音楽教育観に対して、3者3様の方法によって、単なるレパートリーの拡張以上の意味を有する音楽観の再構築を行った点、そしてそれに伴い、「音楽構造の理解」というキーワードを巡る多様な見解を提示した点にあると言えるだろう。

### 第2節 デヴィッド・エリオットの視点から見るその今日的意義

当代の音楽教育改革は、少なからず現代の音楽教育界にも影響力を有するものであった。しかし、今日の音楽教育哲学の牽引者ともいえる音楽教育学者、デヴィッド・エリオット (David J. Elliott) は、リーマーを始め、当代の教育改革を否定的に捉えていることで知られる。本節では、エリオットの音楽教育観を概観することで、反批判的に、当代の教育改革が有する今日的意義を相対化した。

上述したように、本論の研究対象である3者は、それぞれの音楽観を有しつつも、音楽構造の理解に教育的価値を見いだしていた点で共通していた。しかし、エリオットは、構造理解を強調する当代の教育改革を難じる。エリオットは、旋律「について」の概念、和声「について」の概念は、「言語的知識」、「言語的概念」であり、音楽に関わる行為によって培われる「手続き的知識 (procedural knowledge)」に対して二次的な必要性しかないことを指摘するのである。

しかし、本論で検討した3者が、その概念「について」の知識、すなわち、「これがクラリネットの音色です」、「これがソナタ形式の第一主題です」、といった主語述語関係によって説明されるいわゆる「宣言的知識 (declarative knowledge)」以上のものを提供しようとしていることは明らかである。CMPを発案した作曲家デロ・ジョイオが学生に提供しようとした経験、MMCPが学習者に培おうとした音それ自体に対する洞察、そして音楽を現示的シンボルとして捉えたリーマーがリスニングを通して理解させようとした概念は、「について」の知識に留まるものではない。それは、構造が有する「表現性」、すなわちクラリネットの低音域がもつあの思慮深い「表現性」、ソナタ形式において複雑な展開部の後に第一主題が回帰した際のあの感動的な「表現性」の理解とも言い得るものである。3者は、エリオットの批判を部分的に回避しつつ、しかも、構造の「表現性」の理解という今日的にも有益な教育観を提示し得るものであった。

### 第3節 総括—我が国の音楽教育実践に対する示唆

本節では、本論の結果が有する実際的な示唆を、我が国の慣例的な教育実践と比しながら具体化して論じた。

学習指導要領においても共通事項として言及される音楽構造は、今日においては、言語能力の育成という全教科的指針と協調することで、エリオットの批判する「言語的概念」として取り扱われるに留まっていることが多々ある。本論の研究対象である3者が体現していたように、音楽構造はその「表現性」に言及して教授されるべきであろう。さらに、感動経験の提供を志す際にも、構造の「表現性」に対する視座を生徒に培うことで、その経験を音楽芸術独特のものにすることができる。音以外のコンテクスチュアルな要素が感動経験に与える影響を認めつつも、その上で構造の「表現性」をリスペクトすることで、音楽教育は、他では得難い経験を組織することができるのである。

### 文献

#### i. 史料

Arberg, Harold, "Program for Music in the U.S. Office of Education (1)", *Bulletin of the Council for Research in Music Education*, No.3, 1964.

Avshalomov, Jacob, "Ford Foundation, Composers' Project in Music Education", *Music Educators Journal*, Vol.45, No.4, 1959, p.39.

Benson, Warren, Contemporary Music Project, and Music Educators National Conference, *Creative Projects in Musicianship*, Washington D.C.: Contemporary Music Project, 1967.

Burton, Leon, "Comprehensive Musicianship: The Hawaii Music Curriculum Project", *Quarterly Journal of Music Teaching and Learning*, Vol.1, No.3, 1990, pp.67-76.

Boyle, J. David, "CMP's Summer Workshops- Comprehensive Musicianship for Teachers", *Music Educators Journal*, Vol.57, No.7, 1971, pp.65-67.

Carlsen, James C., "The Role of Programmed Instruction in the Development of Musical Skill", *Contemporary*

- Music Project, Music Educators National Conference, *Comprehensive Musicianship: The Foundation for College Education in Music*, Washington D.C.: Contemporary Music Project, 1965, pp.29-36.
- Cohen, Davit, "Re: The Princeton Seminar in Advanced Musical Studies", *Journal of Music Theory*, Vol.4, No.2, 1960, pp.218-220.
- Contemporary Music Project, Music Educators National Conference, *Comprehensive Musicianship: The Foundation for College Education in Music*, Washington D.C.: Contemporary Music Project, 1965.
- Contemporary Music Project, Music Educators National Conference, *Contemporary Music for School*, Washington D.C.: Contemporary Music Project, 1966.
- Contemporary Music Project, Music Educators National Conference, *Experiments in Musical Creativity*, Washington D.C.: Contemporary Music Project, 1966.
- Contemporary Music Project, "The CMP Library: A Collection of Contemporary Music for Use in the Schools", *Music Educators Journal*, Vol.56, No.1, 1969, pp.87-88+90.
- Contemporary Music Project, Music Educators National Conference, *Comprehensive Musicianship: An Anthology of Evolving Thought*, Washington D.C.: Contemporary Music Project, 1971.
- Contemporary Music Project, Music Educators National Conference, *Comprehensive Musicianship and Undergraduate Music Curricula*, Washington D.C.: Contemporary Music Project, 1971.
- Contemporary Music Project, "CMP Program Summary" (unpublished), Special Collection in Performing Arts University of Maryland Library.
- Dello Joio, Norman, "The Quality of Music", *Music Educators Journal*, Vol.48, No.5, 1962, pp.33-35.
- Dello Joio, Norman, "The Contemporary Music Project in Review", *Music Educators Journal*, Vol.54, 1968, pp.42-70.
- Dello Joio, Norman, "Music in the College", Taylor, Harold, *Essays in Teaching*, Harper & Row, Publishers, Inc., 1971, pp.164-175.
- Dello Joio, Norman, "MENC's Contemporary Music Project Brought Composers to Classroom", *Music Educators Journal*, Vol.70, No.5, 1984, pp.65-66.
- Dello Joio, Norman, "CMP: The Basic Concept", *The Quarterly*, Vol.1, No.3, the Center for Research in Music Learning and Teaching, 1990, p.4.
- Diemer, Emma Lou, "A Composer in the Schools", *The Quarterly*, Vol.1, No.3, the Center for Research in Music Learning and Teaching, 1990, pp.33-34.
- Dunlap, Wayne, "Report" (unpublished), Special Collection in Performing Arts University of Maryland Library.
- Elliott, David J. *Music Matters*, Oxford University Press, 1995.
- Elliott, David J. / Silverman, Marissa, *Music Matters*, Oxford University Press, 2014.
- Ernst, Roy Edward, *A Taxonomical Analysis of Selected Units of the Hawaii Comprehensive Musicianship Program*, Ph.D. Dissertation, The University of Michigan, 1974.
- Frackenpohl, Arthur, "Remembering the CMP", *The Quarterly*, Vol.1, No.3, the Center for Research in Music Learning and Teaching, 1990, pp.32.
- Felciano, Richard, "Final Report" (unpublished), Special Collection in Performing Arts University of Maryland Library.
- Folstrom, Roger J., "History of Composers in the Schools Project", *Music Educators Journal*, Vol.70, No.1, 1983, p.63.
- Forte, Allen, "The Role of The Study of Music Theory in the Development of Musical Understanding",

- Contemporary Music Project, Music Educators National Conference, *Comprehensive Musicianship: The Foundation for College Education in Music*, Washington D.C. : Contemporary Music Project, 1965, pp.37-41.
- Garofalo, Robert J., *Blueprint for Band*, J. Weston Walch, Meredith Music Publication, 1976.
- Hartshorn, William C., “The Study of Music as an Academic Discipline”, *Music Educators Journal*, Vol.49, 1963.
- Landis, Beth, “Comprehensive Musicianship-A Look in the Crystal Ball”, *Music Educators Journal*, Vol.57, No.1, 1970, pp.48-49.
- Lawrence, Vera Brodsky, “CMP: An Innovative Force in American Music”, *Notes*, Vol.26, No, 3, 1970, pp.482-486.
- Leonhard, Charles, “The Philosophy of Music Education – Present and Future”, Contemporary Music Project, Music Educators National Conference, *Comprehensive Musicianship: The Foundation for College Education in Music*, Washington D.C.: Contemporary Music Project, 1965, pp.42-49.
- Leonhard, Charles, “Learning Theory and Music Teaching”, Contemporary Music Project, Music Educators National Conference, *Comprehensive Musicianship: The Foundation for College Education in Music*, Washington D.C.: Contemporary Music Project, 1965, pp.49-58.
- Mailman, Martin, “CM: The Uncommon Elements”, *The Quarterly*, Vol.1, No.3, the Center for Research in Music Learning and Teaching, 1990, pp.35-38.
- Mason, Thom, “Letter to Robert J. Werner” (unpublished), Special Collection in Performing Arts University of Maryland Library.
- Meier, Ann, “An Interview with Norman Dello Joio”, *Music Educators Journal*, 1987, pp.53-56.
- Miller, T. W., “Comprehensive Musicianship at East Carolina University, 1966-1968”, *Quarterly Journal of Music Teaching and Learning*, Vol.1, No.3, 1990, pp.58-60.
- Mitchell, William J., “The Role of Music History and Literature in the Development of Musical Understanding”, Contemporary Music Project, Music Educators National Conference, *Comprehensive Musicianship: The Foundation for College Education in Music*, Washington D.C.: Contemporary Music Project, 1965, pp.59-69.
- Music Educators National Conference, “Contemporary Music Project”, *Music Educators Journal*, Vol. 59, 1973, pp. 33-48.
- Music Educators National Conference, “The Contemporary Music Project for Creativity in Music Education”, *Music Educators Journal*, Vol.54, 1968, pp.41-72.
- Music Educators National Conference, “Contemporary Music Project”, *Music Educators Journal*, Vol. 59, 1973, pp. 33-48.
- Palisca, Claude V., *Seminar on Music Education*, U.S. Department of Health, Education, and Welfare, 1963.
- Palisca, Claude V., *Music in Our School—A Search for Improvement—*, U.S. Department of Health, Education, and Welfare, 1964.
- Pogonowski, Lenore / Thomas, Ronald, B. / Biasini, Americole, *Electronic Keyboard Lab*, Office of Education, Department of Health, Education, and Welfare, 1970.
- Pogonowski, Lenore, “A Personal Retrospective on the MMCP”, *Music Educators Journal*, Vol.88, No.1, 2001, pp.24-27+52.
- Reimer, Bennett, *The Common Dimensions of Aesthetic and Religious Experience*, Ph.D. Dissertation, University of Illinois, 1963.
- Reimer, Bennett, “A New Curriculum for Secondary General Music”, *Bulletin of the Council for Research in Music Education*, No.4, 1965, pp.11-20.

- Reimer, Bennett, "The Development of Aesthetic Sensitivity", *Music Educators Journal*, Vol.51, No.3, 1965, pp.33-36.
- Reimer, Bennett, "Effects of Music Education: Implications from a Review of Research", *Journal of Research in Music Education*, Vol.13, No.3, 1965, pp.147-158.
- Reimer, Bennett, "The Curriculum Reform Explosion and the Problem of Secondary General Music", *Music Educators Journal*, Vol.52, No.3 1966, pp.38-41+117-121.
- Reimer, Bennett, *Development and Trial in a Junior and Senior High School of a Two-year Curriculum in General Music*, U.S. Office of Education, Department of Health, Education, and Welfare, 1967.
- Reimer, Bennett, "Developing Aesthetic Sensitivity in Junior High School General Music Class", *Journal of Aesthetic Education*, Vol.2, No.2, 1968, pp.97-197.
- Reimer, Bennett, *A Philosophy of Music Education*, Prentice Hall, 1970.
- Reimer, Bennett, *A Philosophy of Music Education (Second Edition)*, Prentice Hall, 1989.
- Reimer, Bennett, *A Philosophy of Music Education - Advancing Vision-*, Prentice Hall, 2003.
- Rhodes, Phillip, "Final Report (1970-71)" (unpublished), Special Collection in Performing Arts University of Maryland Library.
- Sand, Ole, "Current Trends in Curriculum and Instruction", Contemporary Music Project, Music Educators National Conference, *Comprehensive Musicianship: The Foundation for College Education in Music*, Washington D.C.: Contemporary Music Project, 1965, pp.70-88.
- Schickele, Peter, "You and L.A. Will Love Each Other", *The Quarterly*, Vol.1, No.3, the Center for Research in Music Learning and Teaching, 1990, pp.29-31.
- Standifer, James A., "Choosing an Approach to Black Studies in Music", *School Musician Director and Teacher*, 1969, pp.60-62+67.
- Standifer, James A, Reeder, Barbara, *Source Book of African and Afro-African Materials for Music Educators*, Washington D.C.: Contemporary Music Project, 1972.
- Standifer, James A., *Comprehensive Musicianship: Urban Education* (unpublished), Special Collection in Performing Arts University of Maryland Library.
- Standifer, James A., "Comprehensive Musicianship: A Multicultural Perspective -Looking Back to the Future", *The Quarterly*, Vol.1, No.3, the Center for Research in Music Learning and Teaching, 1990, pp.10-19.
- Thomas, Ronald B., *Final Report*, U.S. Office of Education, Department of Health, Education, and Welfare, 1970.
- Thomas, Ronald B., *MMCP Synthesis -A Structure for Music Education-*, U.S. Office of Education, Department of Health, Education, and Welfare, 1970.
- Thomas, Ronald B., "Rethinking the Curriculum", *Music Educators Journal*, Vol.56. No.6, 1970, pp.68-70.
- Thomson, William, "The Ensemble Director and Musical Concepts", *Music Educators Journal*, Vol.54, 1968, pp.44-46.
- Thomson, William, *The Hawaii Music Curriculum Project: The Project Design*, Hawaii Curriculum Center, 1968.
- Thomson, William, "Music Rides a Wave of Reform in Hawaii", *Music Educators Journal*, Vol.56, No.9, 1970, pp.73-82.
- Thomson, William, "The Anatomy of a Flawed Success: Comprehensive Musicianship Revisited", *The Quarterly*, Vol.1, No.3, the Center for Research in Music Learning and Teaching, 1990, pp.20-28.
- Ward-Steinman, David, "Comprehensive Musicianship at San Diego State University", *Journal of Music Theory Pedagogy*, Vol.1, No.2, pp.129-147.

- Washburn, Robert, "The Young Composers Project in Elkhart", *Music Educators Journal*, Vol.47, No.1, 1960, p.108-109.
- Washburn, Robert, "Reflection on the MENC-CMP", *Quarterly Journal of Music Teaching and Learning*, Vol.1, No.3, 1990, pp.64-66.
- Werner, Robert J. "A Case History of One Foundation's Philosophy", *The Quarterly*, Vol.1, No.3, the Center for Research in Music Learning and Teaching, 1990, p.5-9.
- Willoughby, David, "CMP Report: A Symposium on Evaluation of Comprehensive Musicianship", *Music Educators Journal*, Vol.58, No.2, 1971, p.55.
- Willoughby, David, Contemporary Music Project, Music Educators National Conference, *Comprehensive Musicianship and Undergraduate Music Curricula*, Washington D.C.: Contemporary Music Project, 1971.
- Willoughby, David, "MENC Historical Center Acquires CMP Library and Files", *Journal of Research in Music Education*, Vol.21, No.3, 1973, pp.195-199.
- Willoughby, David, "Comprehensive Musicianship", *The Quarterly*, Vol.1, No.3, the Center for Research in Music Learning and Teaching, 1990, pp.39-44.
- Zimmerman, Alex H., "Ford Foundation Grant to MENC for Project on Contemporary Music in the School", *Music Educators Journal*, Vol.49, No.4, 1963, p.37.

## ii. 参考文献

- 赤堀正宜「アメリカ公共放送の発達におけるフォード財団の貢献とその思想」『メディア教育研究』第1号, 1998, pp.1-18。
- 安宅智子「米国音楽科教育における Comprehensive Musicianship に関する研究」広島大学大学院教育学研究科, 2007。
- Bess, David Michael, *A History of Comprehensive Musicianship in the Contemporary Music Project's Southern Region Institutes for Music Contemporary Education*, Ph.D. Dissertation, West Virginia University, 1988.
- Bess, David Michael, "Comprehensive Musicianship in the Contemporary Music Project's Southern Region Institutes for Music Contemporary Education", *Journal of Research in Music Education*, Vol.39, No.2, 1991, pp.101-112.
- Boyle, J. David, "Teaching Comprehensive Musicianship at the College Level", *Journal of Research in Music Education*, Vol.19, No.3, 1971, pp.326-336.
- Buccheri, John, "Musicianship at Northwestern", *Journal of Music Theory Pedagogy*, 1900, pp.125-146.
- ブルーナー, ジェローム S./鈴木祥蔵, 佐藤三郎訳『教育の過程』岩波書店, 1963。
- Covery, Paul Michael, *The Ford Foundation-MENC Contemporary Music Project (1959-1973): A View of Contemporary Music in America*, Ph.D. Dissertation, University of Maryland, 2013.
- Daugherty, Elza Lavern, *The Application of Manhattanville Music Curriculum Program Strategies in a Music Class for Elementary Education Majors*, University of Illinois, Ph.D., 1977.
- Downes, Edward, "The Music of Norman Dello Joio", *The Musical Quarterly*, Vol.48, No.2, 1962, pp.149-172.
- Elliott, David J., "Key Concepts in Multicultural Music Education", *International Journal of Music Education*, 1989, 13, pp.11-18.
- Ernst, Roy Edward, *A Taxonomical Analysis of Selected Units of The Hawaii Comprehensive Musicianship Program*, The University of Michigan, Ph.D., 1974.
- Gates, J. Terry, *Music Education in the United States: Contemporary Issue*, The University of Alabama Press,

1988.

- Gauthier, Delores R., "The Arts and the Government: The Camelot Years, 1959-1968", *Journal of Historical Research in Music Education*, Vol.24, No.2, 2003, pp.143-163.
- Grashel, John, "An Integrated Approach: Comprehensive Musicianship", *Music Educators Journal*, Vol.79, No.8, 1993, pp.38-41.
- Hartshorn, William C., "The Study of Music as an Academic Discipline", *Music Educators Journal*, Vol.49, No.3, 1963, pp.25-28.
- 堀江伸「MACOS 開発（ブルーナーらによる）の「現代化」の契機と単元構成の特質－「人間認識」形成実践の今日的意義と課題－」『東京大学教育学部研究紀要』第 22 巻，1982，pp.235-247。
- 磯田三津子『音楽教育と多文化主義－アメリカ合衆国における多文化音楽教育の成立』，三学出版，2010。
- 梶田美香「音楽教育哲学から鑑賞教育への示唆」『名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究』第 9 号，2008，pp.127-140。
- King, Arthur R., Brownell John A., *The Curriculum and the Disciplines of Knowledge*, John Wiley & Sons, 1966.
- 小島律子「Manhattanville Music Curriculum Program の教育的意義－音楽的思考への着目－」『大阪教育大学紀要』第V部門，第 29 巻，第 2・3 号，1980，pp.133-146。
- Lowder, Jerry E., "How Comprehensive Musicianship Is Promoted in Group Piano Instruction", *Music Educators Journal*, Vol.60. No.3, pp.56-58.
- Mark, Michael L., *Contemporary Music Education*, New York: Schirmer Books, 1978.
- マーク，L. マイクル／松本ミサヲ，田畑八郎共訳『音楽教育の現代化』音楽之友社，1986。
- Mark, Michael L., Gary, Charles L., *History of American Music Education*, New York: Schirmer Books, 1992.
- 増井知世子「MMCP カリキュラムの再評価」『教育学研究紀要（CD-ROM 版）』第 55 巻，中国四国教育学会，2009，pp.657-662。
- Moon, Kyung-Suk, *Historical Perspectives on the Manhattanville Music Curriculum Program: 1965-1972*, Ph.D. Dissertation, Arizona State University, 2004.
- 中村仁「ヒンデミットと青年音楽運動」『表象文化論研究』第 4 号，2005，pp.40-59。
- 長尾彰夫「カリキュラム内容としての Discipline－構造と探究の関連性についての一考察－」『待兼山論叢』第 6 号，大阪大学文学部，1973，pp.51-67。
- 長尾彰夫「カリキュラム内容としての Discipline（第 2 報）－70 年代におけるその再検討－」『大阪教育大学紀要』第IV部門，第 24 巻，第 3 号，1975，pp.161-172。
- 長尾彰夫「カリキュラム内容としての Discipline（第三報）－カリキュラム概念の転換と Discipline－」『大阪教育大学紀要』第IV部門，第 26 巻，第 3 号，1977，pp.179-189。
- 長尾彰夫「カリキュラム内容としての Discipline（第 4 報）－内容構成の方法論的視点に関連して－」『大阪教育大学紀要』第IV部門，第 28 巻，第 2・3 号，1980，pp.167-178。
- 小川博久「アメリカにおけるカリキュラム改造とその理論的背景－Discipline-centered Curriculum について－」『北海道教育大学紀要』第 23 巻，第 1 号，1972，pp.14-27。
- 小川博久「Discipline の構造について－J・J・シュワブの知識論－」『教育方法学研究』第 3 号，東京教育大学教育方法談話会，2006，pp.60-79。
- 小川博久「「Discipline」概念の検討（1）－Discipline-centered Curriculum に関連して－」『教育法理学研究』第 4 号，東京教育大学教育方法談話会，2006，pp.39-56。
- 小川昌文「20 世紀のアメリカ合衆国の音楽教育史概説」『大分大学教育学部紀要』第 16 号（1），1994，pp.131-140。



- 小川昌文「ハワイ音楽カリキュラム」日本音楽教育学会編『日本音楽教育事典』音楽之友社，2004，pp.649-651。
- 小川昌文「タンゲルウッド・シンポジウム考その1ーあるいはアメリカ音楽教育の一座標ー」『上越教育大学紀要』第25巻第2号，2006，pp.411-426。
- 奥田恵二『アメリカの音楽ー植民地時代から現代まで』音楽之友社，1970。
- 奥田恵二『「アメリカ音楽」の誕生ー社会・文化の変容の中で』河出書房新社，2005。
- 乙訓稔「ジョン・デューイの児童観と教育理論ー新教育としての児童中心主義の理念を焦点にー」『実践女子大学生生活科学部紀要』第43号，2006，pp.35-43。
- Reed, Janet Boyd, “Repertory from the CMP Years”, *Music Educators Journal*, Vol.70, No.1, 1983, p.64-67.
- リーマー，ベネット／丸山忠璋訳，『音楽教育の哲学』音楽之友社，1987。
- Regelski, Thomas A., *Teaching General Music-Action Learning for Middle and Secondary Schools*, Schirmer Books, 1981.
- Reimer, Bennett “Would Discipline-Based Music Education Make Sense?”, *Music Educators Journal*, Vol.77, No.9, 1991, pp.21-28.
- Robblee, Timothy John, *Examination of the impact of the Contemporary Music Project on wind band repertoire and performance in Oregon*, University of Minnesota, Ph.D., 2009.
- 佐藤三郎「教育内容の現代化」，細谷俊夫編『新教育学大辞典』第2巻，第一法規出版，1990，pp.329-331.
- 千成俊夫「米国における音楽教育カリキュラム改革（Ⅰ）ー60年代以降の動向をめぐってー」『奈良教育大学紀要』第33巻第1号，1984，pp.87-107。
- 千成俊夫「米国における音楽教育カリキュラム改革（Ⅱ）ー60年代以降の動向をめぐってー」『奈良教育大学紀要』第34巻第1号，1985，pp.125-143。
- Steele, Daniel L., *An Investigation into the Background and Implications of the Yale Seminar on Music Education*, Ph.D. Dissertation, University of Cincinnati, 1988.
- Steele, Daniel L., “Background of the Yale Seminar on Music Education”, *The Bulletin of Historical Research in Music Education*, Vol.8, No.2, 1992, pp.67-83.
- 高萩保治「アメリカの音楽教員養成におけるカリキュラム改訂の最近の動向」『東京芸大紀』第5部門第25巻，1973，pp.60-71。
- Thomas, Ronald B., “Musical Fluency: MMCP and Today’s Curriculum”, *Music Educators Journal*, Vol.78, No.4, 1991, pp.26-29.
- Waterman, Richard A., “African Influence on the Music of the Americas”, *Write Me A Few of Yours*, University of Massachusetts Press, 1952, pp.17-27.